

平成 29 年度(2017 年度)

日本特別活動学会 第 4 回 実践事例募集事業

## 優 秀 推 奨 事 例

事例番号 4-1

### 多様な他者と協働することができる児童を育てる特別活動 の研究

#### — 学級活動(1)の学習過程の積み重ねを通して —

福岡県苅田町立苅田小学校 荒牧千春

実践テーマ	多様な他者と協働することができる児童を育てる特別活動の研究 ～学級活動(1)の学習過程の積み重ねを通して～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	近年、社会参画の意識の低さが課題となっており、学校教育には、児童 が多様な人間と協働しながら社会の創り手となることができるようにするこ とが求められている。 しかし、本学級の児童(6年生38名)は、学級満足度や意欲が二極化しており、 意欲のある児童同士で協力、分担し学校行事や学級での活動に取り組むことが多 いという現状がある。 そこで、多様な他者と関わり合う学級活動(1)の実践を積み重ねることで、集団 活動のよさを実感し、認め合い、互いのよさや可能性を発揮しながら人間 関係をよりよく形成できる力をつけられるようにしたいと考えた。学級活動(1)に おいて、多様な他者と協働することができる児童が育つ指導の在り方を明 らかにする。
実践の時期	平成 29 年 12 月

<研究の目標> 学級活動（１）において、多様な他者と協働することができる児童が育つ指導の在り方を明らかにする。

以下の視点を重視した学級活動（１）の実践の積み上げを図る。

視点１ 学級・学校生活への参画意識を高める「みんながつくる！議題選定」

- ・学級全員にアンケートを実施して議題収集
- ・「学級目標」「学級の課題」「時期」の３条件から計画委員の児童が選定
- ・選定された議題を学級全員に諮り、決定

視点２ 自発的、自治的な実践を促す「みんなで作るよ！計画表」

- ・計画委員が「活動の全体計画」を作成
- ・計画委員が「話合いの活動計画」を作成
- ・同じ役割の人たちで「実践当日までの活動計画」を作成

視点３ 互いのよさが発揮できる実践を目指す「みんなが輝く！学級会」

- ・計画委員が、全員の原案に対する考えを事前に把握する。
- ・学級目標をもとに話合いのポイントを設定する。
- ・取組の工夫や役割分担について重点を置く。

視点４ 次の実践につなぐ「次もみんなで作る！振り返り」

- ・「話合い」「準備」「集会当日について」という視点で振り返る。
- ・活動中の様子をビデオや写真で見せて振り返りを書く。
- ・目標が達成したら、花紙で作った花を掲示する。

<実践事例> : 詳細事例あり

- 実践 1 : 議題「6年1組をもっと楽しくするための係活動を決めよう」
- 実践 2 : 議題「苧田小学校の児童会のスローガンを決めよう」
- 実践 3 : 議題「運動会を成功させるために6年1組のスローガンを決めよう」
- 実践 4 : 議題「人権なかよし集会の6年1組のめあてを決めよう」
- 実践 5 : 議題「雨の日の過ごし方を話し合って1年生に伝えよう」
- 実践 6 : 議題「係活動をふり返ろう」
- 実践 7 : 議題「Sくんのお別れ会をしよう」
- 実践 8 : 議題「6年1組を盛り上げる係活動を決めよう」
- 実践 9 : 議題「6年1組の旗を作ろう」
- 実践 10 : 議題「苧田っ子集会(大縄大会)に向けた取組を通して学級目標に近づこう」
- 実践 11 : 議題「ハロウィンパーティーをしよう」
- 実践 12 : 議題「6年1組の歌を作ろう」
- 実践 13 : 議題「6-1笑顔団結世界一プロジェクト①クリスマスパーティーをしよう」
- 実践 14 : 議題「6-1笑顔団結世界一プロジェクト②1年生を集会に招待しよう」
- 実践 15 : 議題「6-1笑顔団結世界一プロジェクト③学年集会を開こう」

<詳細事例>

実践13 議題「6-1 笑顔団結世界一プロジェクト①クリスマスパーティーをしよう」

視点1 学級・学校生活への参画意識を高める「みんながつくる！議題選定」

計画委員会で以下のように議題を選定し、決定した。

- T「2学期前期の最後に話し合いたい議題としてどんな案がありましたか。その中から“①学級目標”“②学級の課題”“③時期”の3つの条件を意識して決めましょう。」
- C1「“6-1 思い出アルバム作り”や“小学校生活最後のクリスマスパーティー”、“6-1のオリジナル遊びづくり”、“1年生とのお別れ集会”などがありました。」
- C2「どの案の提案理由にも、“笑顔で楽しい思い出をつくりたいから”や“集会で団結を深めたい”などの学級目標のことが書いてあります。」
- C3「卒業までの3ヶ月間で、全部できたらいいと思います。」
- C4「ではまず、クリスマスパーティーをすることにしませんか。まず、自分達で計画的に準備できないという課題を克服したいし、時期に合っていると思います。」
- C5「賛成です。それができるようになってから、他の学年を招待したいです。他の案は2学期後期にすることにしたら、みんなも納得してくれると思います。」

3条件を意識させることで、計画委員の児童が必然性のある議題をスムーズに選定できた。提案した議題が取り上げられ、学級会に意欲的に参加できる児童も増えた。

視点2 自発的、自治的な実践を促す「みんなでやるよ！活動計画」

資料1、資料2の活動表を、事前の活動で学級全員に伝えて共通理解することで、事後の活動まで学級全員が自発的、自治的に取り組むことにつながった。

議題「6-1 笑顔団結世界一プロジェクト①クリスマスパーティーをしよう」の全体計画

1. 目的	クリスマスパーティーを通して、みんなが笑顔で楽しく過ごせること。
2. 内容	12月30日（木）実施
3. 参加者	6-1 全員
4. プログラムの流れ	学級会（15分） → 12月30日（木）実施
5. 実施場所	①学級会 学級会室 ②当日の（人ごみ）校庭（体育館）
6. 話し合いの時間を意識させる	

議題「6-1 笑顔団結世界一プロジェクト①クリスマスパーティーをしよう」の話し合いの活動計画

話し合いの順序	時間(分)	話し合いの目的	話し合いの進め方	話し合いの成果
1. 議題の紹介	1分	議題の紹介	議題の紹介	
2. 話し合いの目的	1分	話し合いの目的	話し合いの目的	
3. 話し合いの進め方	1分	話し合いの進め方	話し合いの進め方	
4. 話し合いの成果	1分	話し合いの成果	話し合いの成果	
5. 話し合いの振り返り	1分	話し合いの振り返り	話し合いの振り返り	
6. 話し合いのまとめ	1分	話し合いのまとめ	話し合いのまとめ	

資料1 活動の全体計画

「役割分担」の話し合いでは、役割ごとにリーダーを決めて、実践当日までの活動計画（資料3）を作成して教室に掲示することで、声をかけ合いながら計画的に準備に取り組むことができた。

資料2 話し合いの活動計画

議題「6-1 笑顔団結世界一プロジェクト①クリスマスパーティーをしよう」の話し合いの活動計画

話し合いの順序	時間(分)	話し合いの目的	話し合いの進め方	話し合いの成果
1. 議題の紹介	1分	議題の紹介	議題の紹介	
2. 話し合いの目的	1分	話し合いの目的	話し合いの目的	
3. 話し合いの進め方	1分	話し合いの進め方	話し合いの進め方	
4. 話し合いの成果	1分	話し合いの成果	話し合いの成果	
5. 話し合いの振り返り	1分	話し合いの振り返り	話し合いの振り返り	
6. 話し合いのまとめ	1分	話し合いのまとめ	話し合いのまとめ	

資料3 実践当日までの活動計画

### 視点3 互いのよさが発揮できる実践を目指す「みんなが輝く！学級会」

提案理由：(1) 卒業まで残り約3ヶ月になりました。

(2) そこで、「6-1 笑顔・団結 世界一プロジェクト」を実行しましょう。  
そしてまず、これまでの集会で課題だった準備を計画的にみんなで協力して進めることを意識してクリスマスパーティーをしましょう。

(3) そうすることで、「笑顔・団結 世界一」につながると思うからです。

話し合うこと「①何をするか」「②もっと楽しくする工夫」「③役割分担」

話し合いのポイント「①笑顔になれる」「②みんなで準備・活動できる(団結)」

C1「ぼくは、はないちもんめがいいと思います。わけは、手をつなぐと仲がいい感じで  
団結できると思うからです。」

C2「私も、はないちもんめがいいと思います。わけは、はないちもんめをすると笑顔に  
なれるし、誰をもらうか話し合って団結できると思うからです。」

C3「はないちもんめもいいと思うけど、ぼくは四足歩行リレーがいいと思います。みんな  
な運動が好きだから、盛り上がって笑顔になれると思うからです。」

議長「クリスマスバスケットについて意見を書いているC4さん、発表してください。」

C4「私は、クリスマスバスケットがいいと思います。わけは、準備で協力し合うことで、  
団結できると思うからです。」

議長「では、役割分担を決めます。自分のよさが発揮できる係に入るようにしましょう。」

C5「私は、折り紙が得意だからかざりを作る係に入ります。」

C6「ぼくは、遊びを考えるのが好きだから、遊びのルールを決めて伝える係に入ります。」

計画委員が意図的に指名をすることで、普段はあまり発言できない児童や少数意見の立場の児童も安心して発表できる場をつくることができた。また、互いのよさが発揮できる役割を担当することで一人一人が活躍しながら意欲的に準備・活動することにつながった。

### 視点4 次の実践につなぐ「次もみんなで！振り返り」

以下のように、他者と協働するよさに気付いた振り返りを記入した児童が多かった。

(話し合い) 学級目標に近づくことを意識できた。一人一人の意見を大切にできていた。

(準備) みんなが団結して準備していたので、学級目標に近づいていると思った。

(集会当日) みんな笑顔で協力し合って、世界一の思い出を作ることができた。

<成果と課題> ○4つの視点を意識した実践の積

み上げにより意欲的に他者と協働することが  
できる児童が増え、学級満足度や意欲の高さの二  
極化が解消されてきており有効であった(図1)。

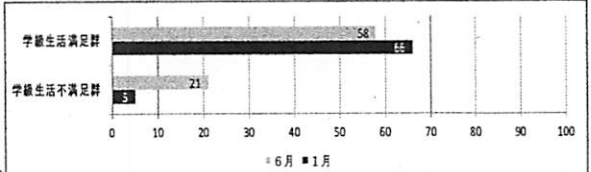


図1 学級満足度尺度調査の結果

●各学年において発達段階に応じた具体的な指導の在り方を明らかにしていく必要がある。

<参考文献>・小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 2017年

・学級会で子どもを育てる やき先生の特別活動講座 宮川八岐 文溪堂 2011年